

SAGA建設技術フェア2015

開催報告書



本報告書は、平成27年6月10日（水）～11日（木）にかけて佐賀市文化会館イベントホールで開催した「SAGA建設技術フェア2015」の実施内容およびアンケート調査結果等についてとりまとめたものです。

平成27年11月

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

目次

1. フェアの概要	1
2. 出展者	2
2.1 出展者一覧表（25 団体）	2
2.2 会場配置	3
2.3 会場のようす	4
3. 来場者	5
3.1 来場者数	5
3.2 来場時間帯	6
4. 実施内容	7
4.1 ポスター及びチラシ	7
4.2 開催プログラム	8
4.3 開会式	9
4.4 特別講演	10
4.5 女性技術者講演	11
4.6 災害派遣報告	12
4.7 技術発表	13
4.8 パネル展示	14
4.9 閉会式	14
4.10 受講証明書の配布	14
5. アンケート結果	15
5.1 来場者アンケート	15
5.2 出展者アンケート	20
6. まとめ	24

1. フェアの概要

主	催	公益財団法人佐賀県建設技術支援機構
共	催	佐賀県／佐賀大学理工学部都市工学科／佐賀大学低平地沿岸海域研究センター／一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会／一般社団法人佐賀県建設業協会／一般社団法人佐賀県建築士会／特定非営利活動法人技術交流フォーラム
後	援	国土交通省九州地方整備局九州技術事務所／国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所／国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所／一般社団法人佐賀県地質調査業協会／佐賀県土木施工管理技士会／一般社団法人佐賀県建築士事務所協会／低平地研究会／公益社団法人土木学会西部支部／公益社団法人地盤工学会九州支部／公益社団法人日本技術士会九州本部／株式会社建設新聞社
日	時	【1日目】平成27年6月10日（水）10:00～16:00 【2日目】平成27年6月11日（木）10:00～16:00
場	所	佐賀市文化会館 イベントホール（佐賀市日の出一丁目 21-10）
目	的	建設分野（土木・建築）の技術・工法・製品などについて、産・学・官における技術情報の交流の場を提供し、技術開発や新技術導入の促進を図ること で建設産業の発展に寄与するとともに、学生・一般の方々に建設業界の魅力や社会資本整備の必要性を認識してもらうことを目的とする。
テ	ー	マ 豊かで安全なくらしを支える建設技術
内	容	技術展示ブース 特別講演 女性技術者講演 災害派遣報告 技術発表 パネル展示
出展	テーマ	環境／防災／コスト縮減／維持管理／佐賀の技術
来	場者	総数 1,363名（2日間延べ） 【内訳】 官公庁 71名 建設業 662名 コンサルタント 245名 学校関係 15名 学生・生徒 326名 一般 44名

2. 出展者

2.1 出展者一覧表（25 団体）

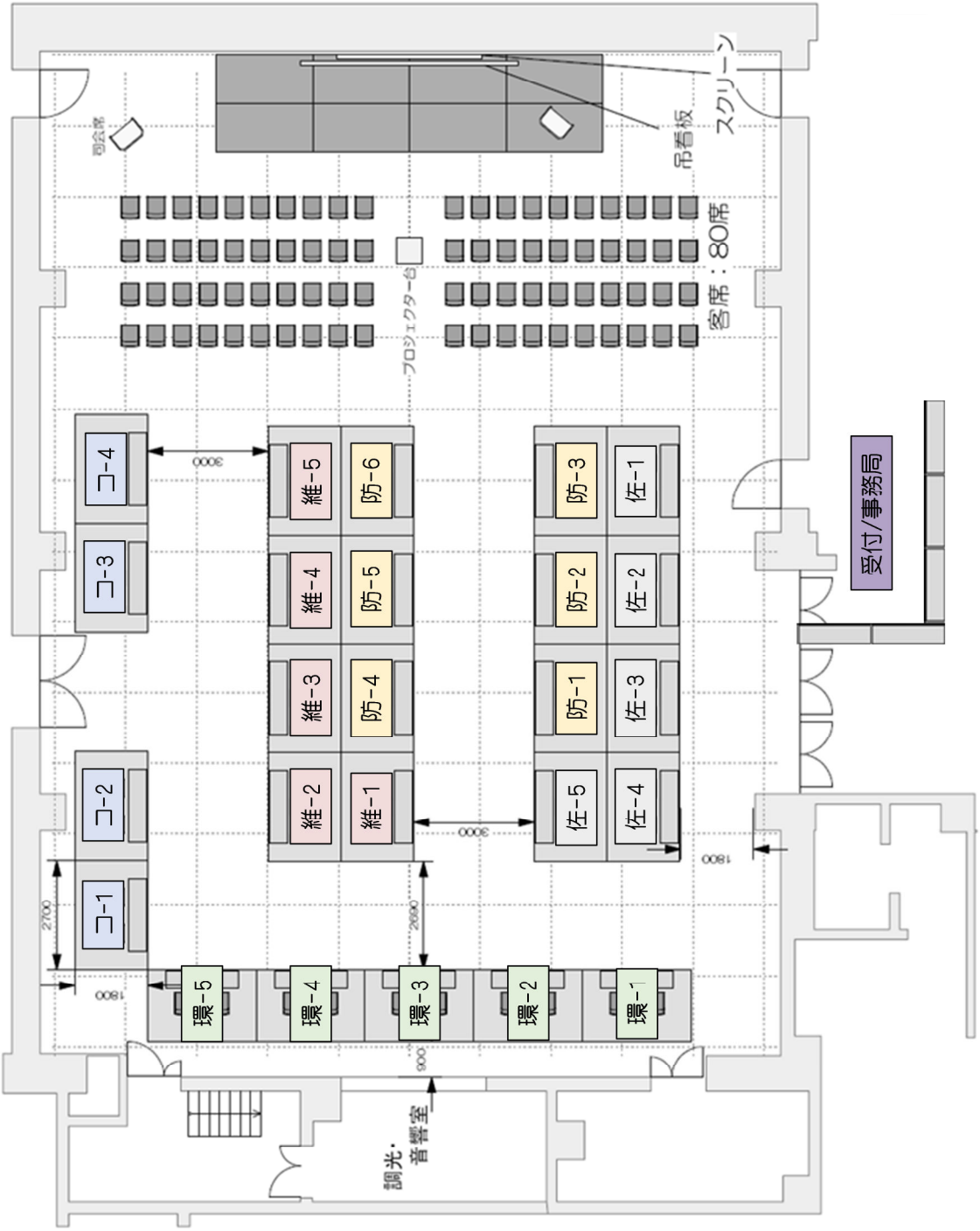
25 の企業・団体からブースを出展していただきました。うち、県内の企業・団体からの出展は 12 ブースでした。

【出展者一覧（25 団体）】

分類	番号	企業・団体名
環 境	環-1	朝日テクノ(株)
	環-2	日本乾溜工業(株) 佐賀支店
	環-3	福井木材(株)
	環-4	福岡建設(株)
	環-5	松尾建設(株)
防 災	防-1	アジア航測(株) 福岡支店
	防-2	WILL工法協会
	防-3	(株) カミナガ
	防-4	KJS協会／アンカー補修協会
	防-5	(一社) 鑄田籠工法協会
	防-6	PAN WALL工法協会
コスト縮減	コ-1	(一財) 日本建設情報総合センター(JACIC) 九州地方センター
	コ-2	(株) 富士建
	コ-3	(株) ヤマウ
	コ-4	(株) リサーチアンドソリューション
維持管理	維-1	麻生グループ
	維-2	佐賀大学インフラ構造物長寿命化研究所
	維-3	(株) 地域開発
	維-4	宮地商事(株)
	維-5	無線遠隔飛行体利活用研究会
佐賀の技術	佐-1	(一社) 佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
	佐-2	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター/低平地研究会
	佐-3	(株) セリタ建設
	佐-4	日之出水道機器(株) 九州営業所
	佐-5	フローティング基礎研究会

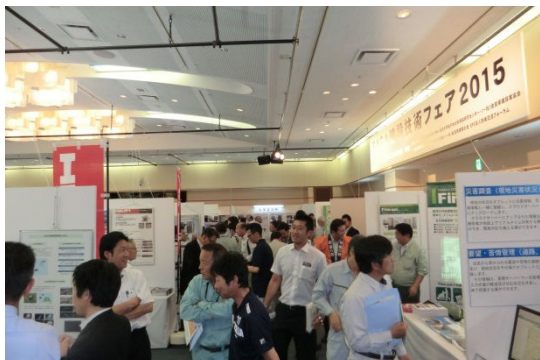
2.2 会場配置

会場配置は、入口付近に受付/事務局、会場入って右側にステージ、残り 2/3 に出展ブースを設けました。



【会場配置図】

2.3 会場のようす



【全 景】



【受 付】



【出展ブース】



【ステージ】

3. 来場者

3.1 来場者数

2日間で総計 1,363 名の方にご来場いただきました。建設業の来場者が最も多く、次いで学生が多い結果となりました。

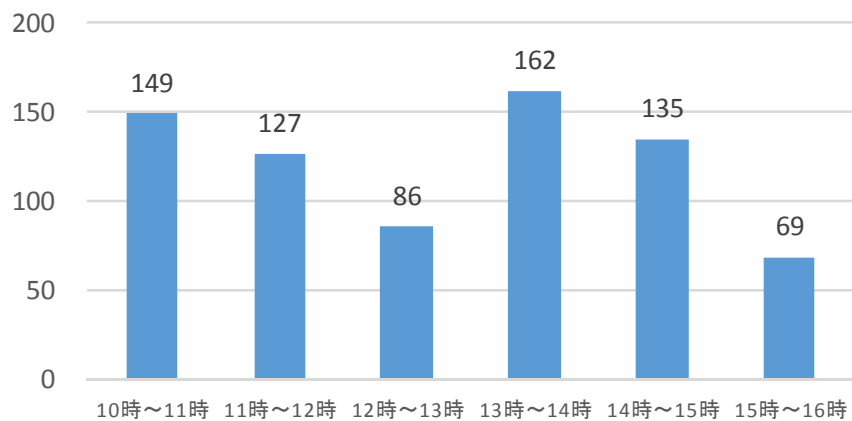
【来場者集計表】

(単位：人)

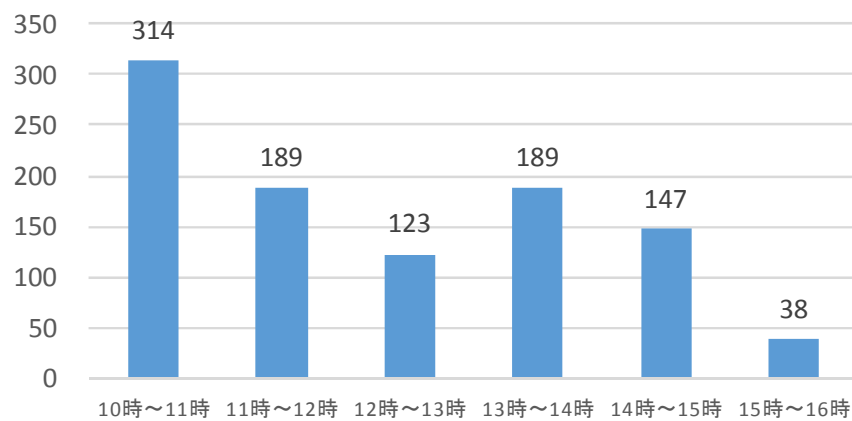
種別	性別	6/10(水)	6/11(木)	小計
官公庁	男性	35	36	71
	女性	0	0	0
	小計	35	36	71
コンサルタント	男性	99	132	231
	女性	7	7	14
	小計	106	139	245
建設業	男性	238	392	630
	女性	19	13	32
	小計	257	405	662
学校関係者	男性	11	1	12
	女性	1	2	3
	小計	12	3	15
学生	—	129	197	326
一般	男性	18	24	42
	女性	2	0	2
	小計	20	24	44
合計		559	804	1,363

3.2 来場時間帯

来場者へのアンケート結果を参考に整理した来場時間帯は下図のとおりです。午前と午後ともに、時間が経つにつれて会場への滞在人数が減る傾向にあるようです。



(1 日目)



(2 日目)

【来場時間帯】

4. 実施内容

4.1 ポスター及びチラシ

フェアの開催を広く周知するため、ポスターおよびチラシを作成し、県市町や関係団体等に配布しました。



(ポスター／チラシ表)



(チラシ裏)

【ポスター及びチラシ】

4.2 開催プログラム

6月10日(水)《1日目》

時間	内容	
10:00～10:15	開会式	主催者挨拶 来賓挨拶 テープカット
10:30～11:15	特別講演(1)	「木と土で構築された日本最古のドライドックにみられる土木技術 ～三重津海軍所跡の発掘調査成果～」 佐賀市教育委員会 世界遺産調査室 中野充 氏
11:30～11:45	災害派遣報告(1)	「東日本大震災(宮城県)での災害対応」 佐賀県県土づくり本部建設・技術課 宮原大典 氏
13:00～14:00	技術発表(1) 各15分	①【環-3】福井木材(株) ②【防-3】(株)カミナガ ③【防-5】(一社)鋳田龍工法協会
14:05～14:35	女性技術者講演	「女性技術者から見た建設業界の魅力と目指す将来像について」 国土交通省 筑後川河川事務所 嘉瀬川出張所 赤星綾香 氏
14:40～14:55	災害派遣報告(2)	「東日本大震災で被災した宮城県の今」 (公財)佐賀県建設技術支援機構 松尾貴弘
15:00～16:00	技術発表(2) 各15分	④【防-6】PAN WALL工法協会 ⑤【コ-1】(株)富士建 ⑥【維-1】麻生グループ
～16:00	1日目閉会	

ブ
ー
ス
展
示

6月11日(木)《2日目》

時間	内容	
10:00～	2日目開会	
10:15～11:00	特別講演(2)	「未来の土木を担う人材の育成と技術継承」 佐賀大学名誉教授 荒牧軍治 氏
11:15～11:30	災害派遣報告(3)	「東日本大震災(宮城県)での災害対応」 佐賀県有明海沿岸道路整備事務所 松本登 氏
13:00～14:00	技術発表(3) 各15分	⑦【維-2】佐賀大学インフラ構造物長寿命化研究所 ⑧【維-3】(株)地域開発 ⑨【佐-2】佐賀大学低平地沿岸海域研究センター/低平地研究会
14:15～14:30	災害派遣報告(4)	「新潟・福島豪雨による被害状況と対応」 (公財)佐賀県建設技術支援機構 今里昌幸
14:45～15:45	技術発表(4) 各15分	⑩【佐-3】(株)セリタ建設 ⑪【佐-4】日之出水道機器(株)九州営業所 ⑫【佐-5】フローティング基礎研究会
15:50～16:00	閉会式	

ブ
ー
ス
展
示

4.3 開会式

開催にあたり、ステージにて開会式を執り行いました。共催や後援の皆様方にもご列席いただき、主催者挨拶、来賓挨拶、テープカットが行われました。



【主催者挨拶（支援機構 小野理事長）】



【来賓挨拶（佐賀国道事務所長 柳田誠二 氏）】



【来賓・共催者によるテープカット】

（テープカット写真 左から）

特定非営利活動法人技術交流フォーラム

一般社団法人佐賀県建築士会

国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

佐賀県県土づくり本部

一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター

事務局長

副会長

所長

理事長

副本部長

会長

センター長

古賀 浩史 氏

犬塚 敏治 氏

柳田 誠二 氏

小野 龍太

池田 直博 氏

佐々木義文 氏

荒木 宏之 氏

4.4 特別講演

1 日目は佐賀市教育委員会 文化振興課 世界遺産調査室 主査 中野充 氏に「木と土で構築された日本最古のドライドックにみられる土木技術～三重津海軍所跡の発掘調査成果～」と題してご講演いただきました。

2 日目は佐賀大学名誉教授 荒牧軍治 様に「未来の土木を担う人材の育成と技術継承」と題してご講演いただきました。



【佐賀市 中野氏による講演のようす】



【佐賀大学名誉教授 荒牧氏による講演のようす】

4.5 女性技術者講演

建設業界での女性の一層の活躍に寄与することを目的として、女性技術者講演を 1 日目に行いました。講演では、国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所 嘉瀬川出張所 管理第二係長 赤星綾香 氏に「女性技術者から見た建設業界の魅力と目指す将来像について」と題してご講演いただきました。



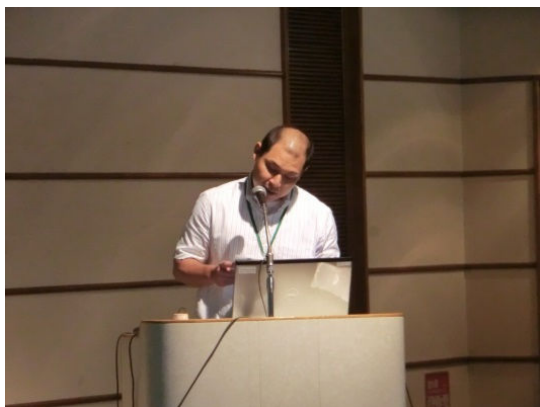
【国交省 赤星氏による講演のようす】

4.6 災害派遣報告

東日本大震災の復興状況などを広く知っていただくため、災害派遣に行かれた技術者による災害派遣報告を行いました。

1日目は、佐賀県 県土づくり本部 建設・技術課 主査 宮原大典 氏に「東日本大震災（宮城県）での災害対応」、当支援機構 技術部 土木技術課 主幹 松尾貴弘に「東日本大震災で被災した宮城県の今」と題してご講演いただきました。

2日目は、佐賀県有明海沿岸道路整備事務所 主査 松本登 氏に「東日本大震災（宮城県）での災害対応」、当支援機構 技術部 土木技術課 主査 今里昌幸に「新潟・福島豪雨による被害状況と対応」と題してご講演いただきました。



（佐賀県 宮原氏）



（支援機構 松尾）

【災害派遣報告のようす（1日目）】



（佐賀県 松本氏）



（支援機構 今里）

【災害派遣報告のようす（2日目）】

4.7 技術発表

希望する 12 のブース出展者による技術発表をステージにて行いました。1 出展者あたりの発表時間は 15 分で各技術や製品などについて発表がありました。

【技術発表者一覧表】

日程	No.	分類	出展者名
1 日 目	1	【環-3】	福井木材(株)
	2	【防-3】	(株)カミナガ
	3	【防-5】	(一社) 鋳田籠工法協会
	4	【防-6】	PAN WALL工法協会
	5	【コ-1】	(株)富士建
	6	【維-1】	麻生グループ
2 日 目	7	【維-2】	佐賀大学インフラ構造物長寿命化研究所
	8	【維-3】	(株)地域開発
	9	【佐-2】	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター/低平地研究会
	10	【佐-3】	(株)セリタ建設
	11	【佐-4】	日之出水道機器(株)九州営業所
	12	【佐-5】	フローティング基礎研究会



【技術発表のようす】

4.8 パネル展示

国土交通省九州地方整備局九州技術事務所様のご提供により、新技術に関するパネルを入口付近に展示しました。



【新技術に関するパネル展示のようす】

4.9 閉会式

当支援機構の小野理事長の閉会挨拶で2日間の幕を閉じました。



【閉会挨拶】



【閉会式のようす】

4.10 受講証明書の配布

当フェアは一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会の運営する CPDS（継続学習制度）の学習プログラムとして認定を受けており、希望する来場者 705 名に受講証明書を発行しました。なお、CPDS のユニット数は両日とも3ユニットでした。

5. アンケート結果

5.1 来場者アンケート

来場者を対象にアンケート調査を行いました。

(1) 1 日目

設問 1) フェアの開催はどこで知ったか

職場内(学校内)からの案内が最も多くなりました。

設問 2) 職業

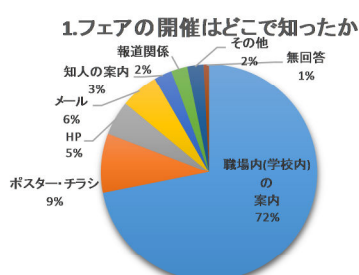
建設業が最も多く来場者の半数を占め、次いで学生(28%)となっています。

設問 3) 居住地

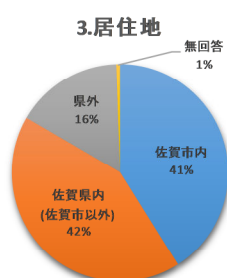
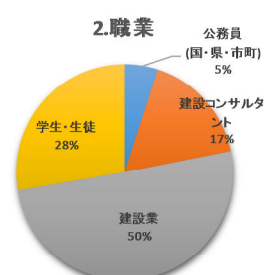
佐賀県内から来場者が 80%を超え、そのうち佐賀市が半数を占めています。

設問 4) 滞在時間

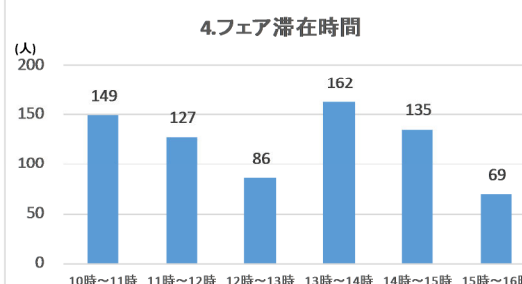
午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。



【その他】講習会×1人、研修会×1人、業界の案内×1人、新聞×1人、建設新聞×1人、支援機構からの案内×1人、業界の案内×1人



【県外】福岡県×39人、長崎県×9人、大分県×2人、熊本県×1人



設問 5) 来場目的

情報収集が最も多く 55%、建設技術への興味が 36%となっています。

設問 6) 来場目的は達成できたか

達成できたとやや達成できたを合計すると 85%となっています。

設問 7) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は 8 割程度となっています。

設問 8) 開催場所は妥当か

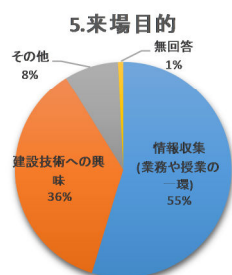
妥当という回答は 8 割程度あるが、より広い会場を要望する意見もありました。

設問 9) 毎年の開催を希望するか

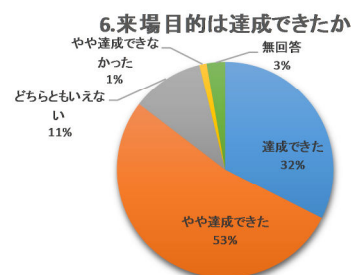
希望するという回答は 76%となっています。

設問 10) 全体評価

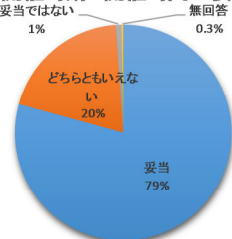
アンケート回答者の半数以上は満足あるいはやや満足と回答しています。



【その他】出展×5人、CPD×2人、CPDS×4人、講演×1人

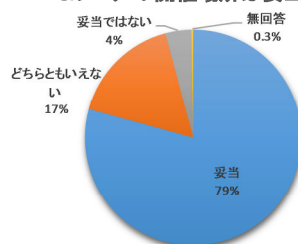


7.フェアの開催時期と開催時間は妥当か



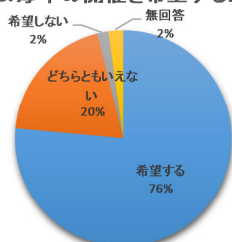
【妥当ではない】秋×1人、5月頃(梅雨を避ける)×1人

8.フェアの開催場所は妥当か



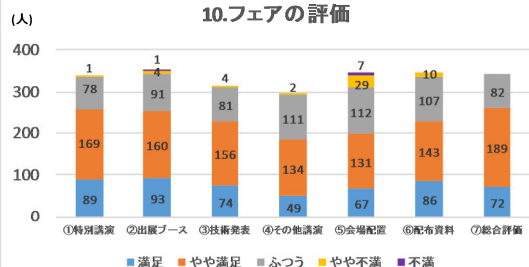
【どちらともいえない】別会場がよい×1人
【妥当ではない】会場を広く×8人、携帯がつかない×1人、駐車スペースを確保できる場所×1人、椅子を増やしてほしい×1人、駅前×1人、白山あたり×1人、佐賀大学×1人、ヤフオクドーム×1人

9.毎年の開催を希望するか



【希望しない】新技術や法改正後の取組時×1人、1回/2年、1回/3年、1回/4年×各1人

10.フェアの評価



(2) 2 日目

設問 1) フェアの開催はどこで知ったか

職場内（学校内）からの案内が最も多くなりました。

設問 2) 職業

建設業が最も多く来場者の 6 割以上を占めています。

設問 3) 居住地

佐賀県内から来場者が 80%を超え、そのうち佐賀市が半数以上を占めています。

設問 4) 滞在時間

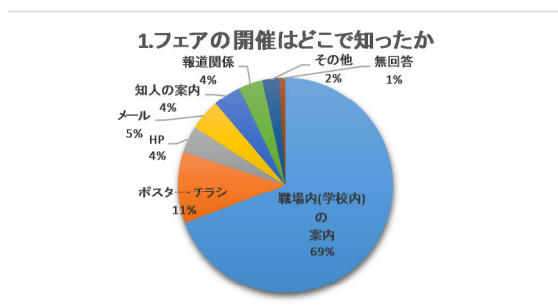
午前中の来場者が多い結果となりました。

設問 5) 来場目的

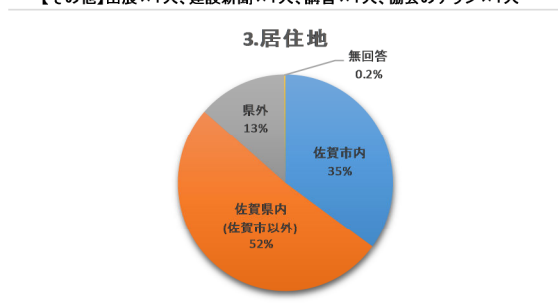
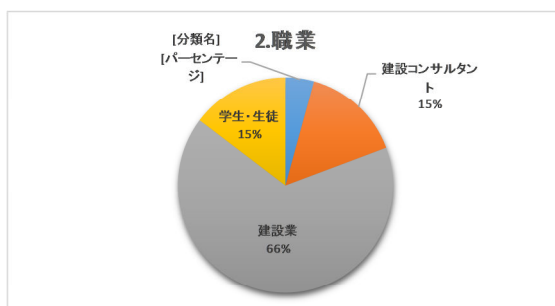
情報収集が最も多く 62%、建設技術への興味が 34%となっています。

設問 6) 来場目的は達成できたか

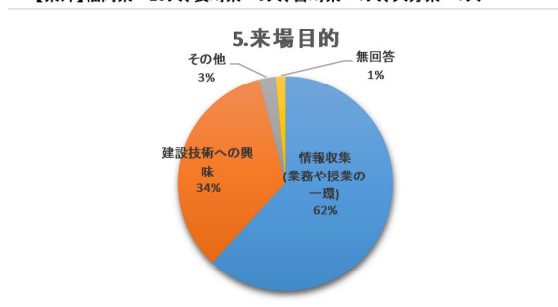
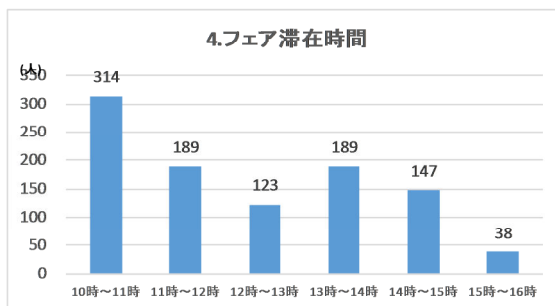
達成できたやや達成できたを合計すると 86%となっています。



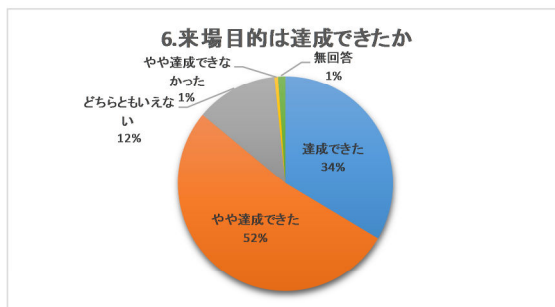
【その他】出展×1人、建設新聞×1人、講習×1人、協会のチラシ×1人



【県外】福岡県×29人、長崎県×9人、宮崎県×1人、大分県×1人



【その他】PR×1人、出展5人、講演を聴きに(荒牧先生、松本氏)×各2人
【無回答】CPDS×6人



設問 7) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は 8 割以上となっています。

設問 8) 開催場所は妥当か

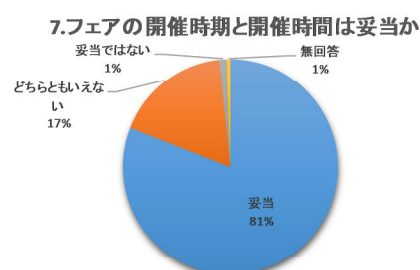
妥当という回答は 8 割以上あるが、より広い会場を要望する意見もありました。

設問 9) 毎年の開催を希望するか

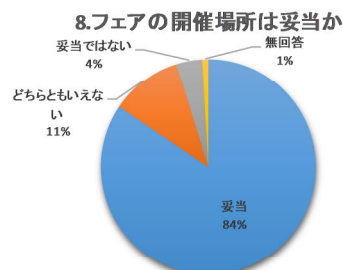
希望するという回答は 84%となっています。

設問 10) 全体評価

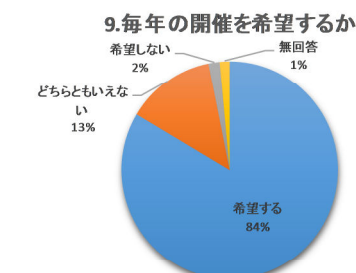
アンケート回答者の半数以上は満足あるいはやや満足と回答しています。



【どちらともいえない】4月頃×1人

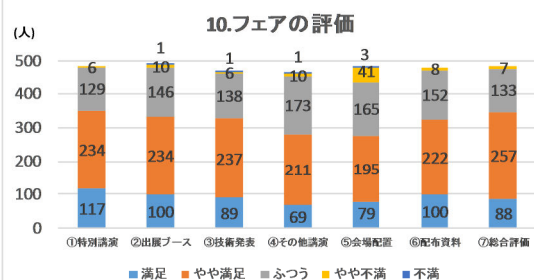


【妥当ではない】会場を広く×9人、唐津市内×1人、伊万里市内×1人、コーナー別に会場をわけろ×1人



【希望する】4回/1年(1回/3ヵ月)×1人

【希望しない】1回/半年×1人、1回/2年×1人、1回/2～3年×1人



(3) 来場者からの自由意見

- ・継続的に実施してほしい
- ・テーマを絞ってほしい（全体的に内容がバラバラ、回ごとに地盤改良、耐震設計、地球温暖化等メインテーマを決める）
- ・新技術のデモ（野外）が見たい
- ・新技術の紹介をもっとお願いしたい
- ・マルチコプターなど外で見られる技術が見たい
- ・これからも新技術工法・商品・材料等を望む
- ・大型土木や地盤改良など非常に勉強になる
- ・公共工事でもこのような工法を積極的に利用できる環境にしてほしい
- ・舗装の新技術を見たい
- ・自然環境にやさしい（豊かな自然の復旧等）工法等を見たい
- ・安全衛生(夏場の熱中症対策)の画期的なものを見たい
- ・今後さらなる充実した内容になるよう期待する
- ・参加企業が増えることを期待する
- ・出展ブースを増やしてほしい
- ・各技術のPRになり、発注機関が採用する連携が取ればよい
- ・屋外に本物のショベルカーなどの重機を展示してほしい
- ・昔からある伝統技術か最新技術を見たい
- ・実績の多くある技術も良いが、最先端の技術も見たかった
- ・同種の技術はブースを固めた方がわかりやすい
- ・説明がよく聴けなかったブースがあった
- ・丁寧に説明してもらえた
- ・一般住宅などに利用できる技術の紹介などがもう少しあっても良かった
- ・もっとこういう機会を増やしてほしい
- ・伝統技術を見てみたい
- ・講演会場と出展ブースを別会場にしたほうが良い（雑音で講演が聞きづらい）
- ・ブーススペースが狭い
- ・通路が狭い
- ・アンケートを書く場所がない
- ・県内企業が少ない
- ・多少詰め込みすぎに感じた（一つの場所にまとめるのではなく 2.3 箇所に業種ごとにまとめた方がよい）
- ・三重津海軍所跡の件は、TVなどで世界遺産にとの声は聴いていたが同じ県民なのに詳しく知ることがなかった本日の講演で詳しく聴けて良かった
- ・配置がわかりにくい

5.2 出展者アンケート

出展者を対象にアンケート調査を行いました。25 社の出展者のうち、17 社から回答をいただきました。

設問 1) 出展の目的は

新製品等の PR と企業・団体の PR が 1/3 ずつを占めました。

設問 2) 出展の目的は達成できたか

やや達成できたが半数近くを占め、達成できた・達成できなかったは 0 でした。

設問 3) 次回も出展したいか

出展したいは 53%で、出展しないとの回答は 0 でした。

設問 4) 技術発表をしたか

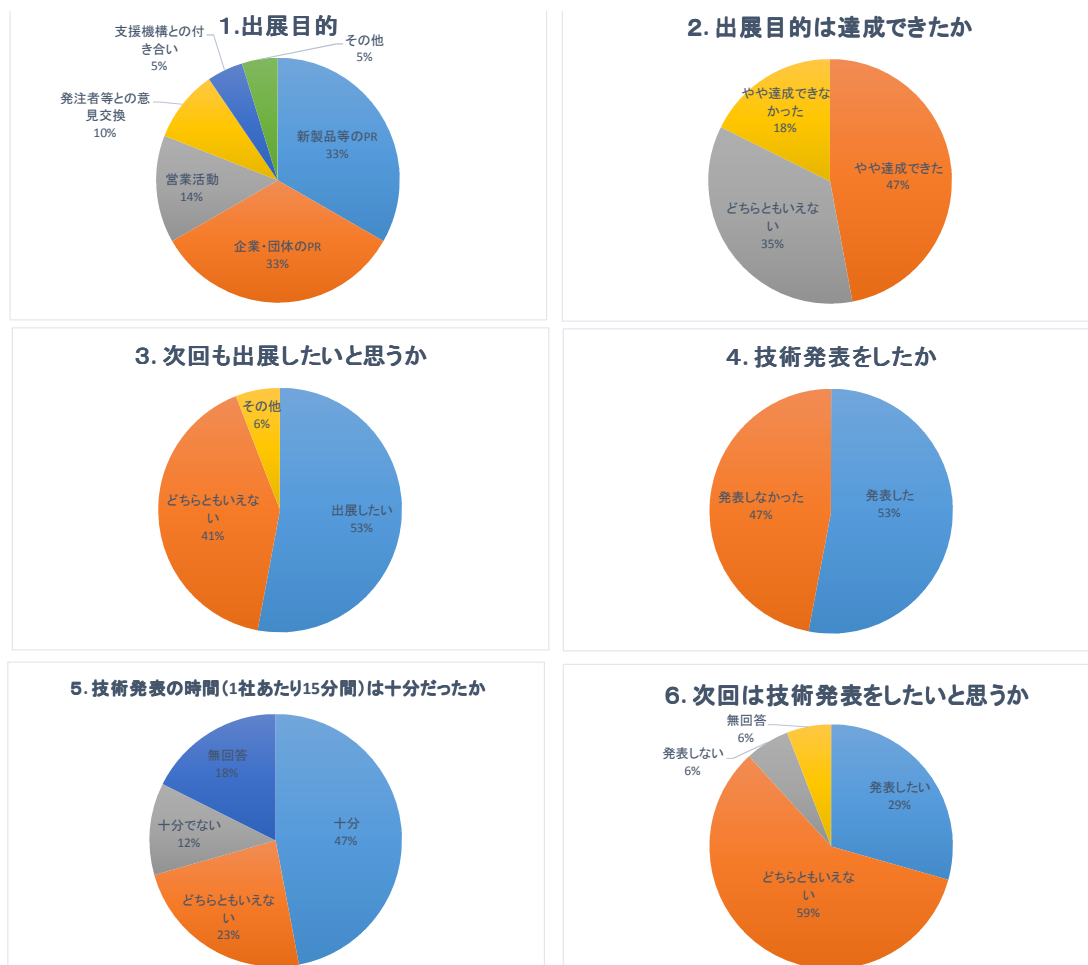
半数程度が技術発表をしたとの回答でした。

設問 5) 技術発表の時間（1 社あたり 15 分間）は十分か。

半数程度は十分だと回答しました。

設問 6) 次回は技術発表をしたいか

次回も技術発表をしたいと答えたのは 29%でした。



設問 7) 来場者数に満足したか

満足と回答したのは 65%でした。

設問 8) フェア後に来場者に PR したか

半数程度の出展者がフェア後に PR したようです。

設問 9) フェア後に来場者からの問合せはあったか

来場者から問合せがあったのは 2 割程度でした。

設問 10) フェアへの出展は有効だと感じたか

半数程度は出展が有効だったと感じているようです。

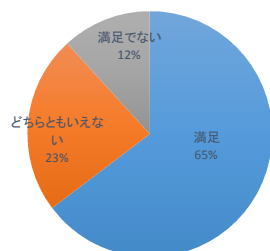
設問 11) 配布したポスターやチラシは活用したか

ポスターやチラシを活用したのは 4 割程度でした。

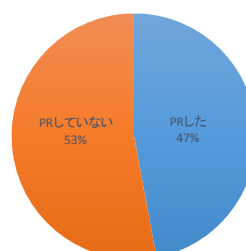
設問 12) 出展費用（ブース 50,000 円、技術発表 10,000 円）は妥当か

妥当と感じた出展者は半数程度でした。

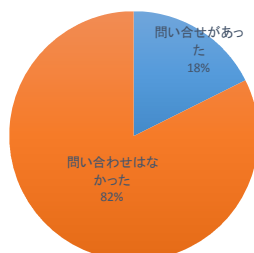
7. 来場者数に満足しているか



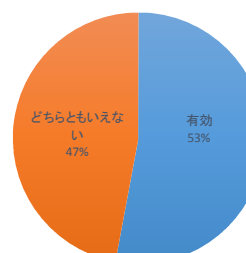
8. フェア後に来場者にPRしましたか



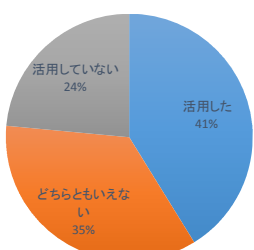
9. フェア後に来場者からの問合せはあったか



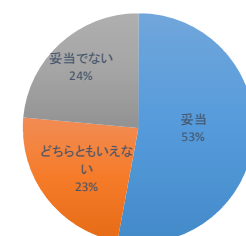
10. フェアへの出展は有効だったと感じているか



11. 配布したポスターやチラシは活用したか



12. 出展費用(ブース50,000円、技術発表10,000円)は妥当だと思うか



設問 13) 出展ブースの配置は適当か

4 割程度は適当だと感じたようだが、より広いブースを希望する意見もありました。

設問 14) 意見交換スペースは必要か

必要だと感じたのは半数程度はいるようです。

設問 15) フェアが掲げる目的は達成したと思うか

達成したとやや達成したという回答を合計すると 7 割以上となりました。

設問 16) フェアの開催時期と開催時間は妥当か

妥当という回答は 8 割以上でした。

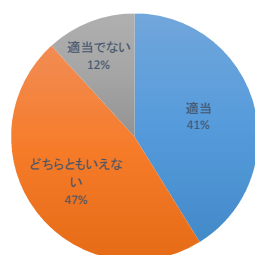
設問 17) フェアの開催場所は妥当か

妥当と感じた出展者は 6 割程度いたようです。

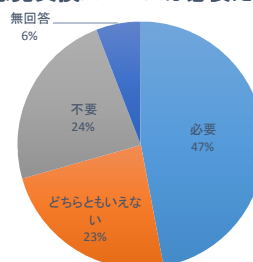
設問 18) 毎年の開催を希望するか

希望すると回答した方が半数以上はいました。

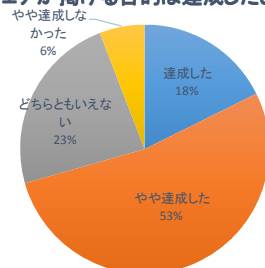
13. 出展ブースの配置は適当だと思うか



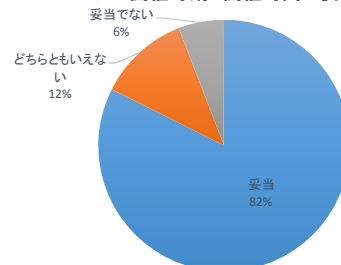
14. 意見交換スペースは必要だと思うか



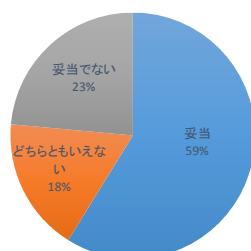
15. フェアが掲げる目的は達成したと思うか



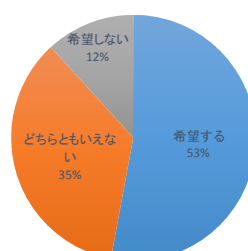
16. フェアの開催時期と開催時間は妥当だと思うか



17. フェアの開催場所は妥当だと思うか



18. 毎年の開催を希望するか



【出展者からの自由意見】

- ・ 県内業者のブース出展が少なかったので来年は多く出展してもらいたい
- ・ 発注者である事業体（国・県・市町）からの参加者の増員を期待しています
- ・ 初回にしては大成功だったと思う
- ・ 建設業界の魅力、大切さを一般社会に如何にして浸透させていくものか
- ・ 荒牧先生の講話のような内容を如何に社会に伝えていくものか
- ・ マスメディアがなかなかこっちを向かない中で、財政逼迫の国家・自治体経営の中で、難しいことばかりだ
- ・ 自治体、コンサル、ゼネコンの来場者数を増やすPRをしてほしい
- ・ ビジネスチャンスが生まれるように、県外からも来場・出展が増えることを希望
- ・ 初回に関わらず結構な来場者が足を運んでくださったように思うが、学生が多く正直出展企業としての的外れな面もあった
- ・ 来年は、より多くの企業や官庁の方に来場してもらえることを希望する
- ・ 場合によっては、出展企業としても学生をターゲットにした内容を検討していくことも必要だと思う
- ・ 民間（特に設計事務所様、GC（建設会社様）の勧誘及び来場を期待したい
- ・ 建設業者や建設コンサルタントへのPR・勧誘が充分であったか、また県や市町村の担当部署への周知は徹底していたか
- ・ 土木職員中心であったように思う。農業土木、森林土木等の行政職員を幅広く来場して頂くような努力が必要ではないか
- ・ 生徒や学生の集客を期待する場合、初心者向けの情報提供やイベントが必要だと思う
- ・ 発表の場所を別途確保し、休憩スペースを確保してはと感じた
- ・ 出展者とブース来場者が意見交換をするスペースがなく、意見交換ブースの設置や、ブース自体の拡張など今後の検討課題としてほしい
- ・ 特に福岡での展示会は県内外から多くの企業・学校・役所が展示している
- ・ 来場者も勉強に来た方が質問を多くされる
- ・ 展示会は反響が反響を呼ぶと思うので、佐賀県内発の大手企業にも参加していただけたらおのずと反響を呼ぶと思う
- ・ 来場者の職種がすぐわかるように色別の入場証を発行してほしい
- ・ 会場において携帯電話の通信回線電波が入らなかったため、通常業務の連絡や通信回線が必要な展示に支障が出たため、開催場所の変更等の検討改善を希望
- ・ 出展業者の休憩スペースが欲しい（食事をする場所等）
- ・ あまり公共機関の方の関心がなかったのでは？
- ・ 来場者はほとんど民間企業の人たちが目立った
- ・ 国交省などでも同種企画がなされているので、競合する可能性は懸念される
- ・ 市町村・県関係の担当者が少なかったと思う

6. まとめ

当機構は、地方公共団体の建設行政との連携・協働を図り、社会資本の整備及び公共施設の維持管理に関する各種の技術支援事業を通じて、県民の安全で安心な生活の実現に寄与することを目的としています。

当フェアは、公益目的事業の「技術力向上のための技術情報発信事業」における「建設技術情報啓発事業」に位置付けており、日々進化する建設技術の情報収集発信・利活用が必要不可欠であるという観点から建設技術の理解を深めるための取り組みの一環として実施しました。

当フェアへは当初予想していた以上の方々にご来場いただきました。来場者ならびに出展者に対して実施しましたアンケート結果を見ると、多くの方にご満足いただいた一方、会場の広さや開催内容などへのご意見も多数あり、今後の開催にあたっての課題も明らかになりました。今後はそれらの課題を改善しながら、充実したフェアとなるよう努めてまいります。

最後に、当フェアを開催するにあたり多大なご協力をいただきましたご講演者の皆様、佐賀県をはじめとした共催者ならびに後援の方々、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。